
韓国語能力試験 改編体系 Q & A

2013.12

国立国際教育院
(TOPIK チーム)



1 変更された試験はいつから実施されますか？

2014 年 7 月 20 日（日）実施する第 35 回韓国語能力試験から実施されます。
（第 35 回の試験は韓国でのみ実施. 日本では 2014 年 10 月 12 日の第 36 回の試験から.）



2 主な変更点は何ですか？

区分	現行	変更後																
試験名称 (級)	韓国語能力試験 初級（１～２級）	韓国語能力試験Ⅰ（１～２級）																
	韓国語能力試験 中級（３～４級）	韓国語能力試験Ⅱ（３～６級）																
	韓国語能力試験 高級（５～６級）																	
評価領域 (問題数)	●各級共通（全 104～106 問） 語彙・文法（選択式 30 問） 書き取り（選択式 10 問・記述式 4～6 問） 聞き取り（選択式 30 問） 読解（選択式 30 問）	●韓国語能力試験Ⅰ（全 70 問） 聞き取り（選択式 30 問） 読解（選択式 40 問） ●韓国語能力試験Ⅱ（全 104 問） 聞き取り（選択式 50 問） 書き取り（記述式 4 問） 読解（選択式 50 問）																
配点 (試験時間)	●各級共通 400 点（180 分）	●韓国語能力試験Ⅰ 200 点(100 分) ●韓国語能力試験Ⅱ 300 点(180 分)																
合格級判定	総得点の平均が級別の合格点に達し、 各領域に落第点がないこと	総得点による合格級判定																
〔例〕	○中級の場合	○韓国語能力試験Ⅱの場合																
	<table><tr><td>語彙・文法</td><td>書き取り</td><td>聞き取り</td><td>読解</td></tr><tr><td>45</td><td>39</td><td>60</td><td>62</td></tr></table>	語彙・文法	書き取り	聞き取り	読解	45	39	60	62	<table><tr><td>聞き取り</td><td>書き取り</td><td>読解</td><td>計</td></tr><tr><td>60</td><td>39</td><td>62</td><td>161</td></tr></table>	聞き取り	書き取り	読解	計	60	39	62	161
	語彙・文法	書き取り	聞き取り	読解														
45	39	60	62															
聞き取り	書き取り	読解	計															
60	39	62	161															
	平均 53.5 で 3 級の合格点（50 点）以上だが、書き取りが落第点の 40 点未満 ☞ 不合格	☞ 3 級合格の可能性 ※級別合格点は毎回試験後に別途公開																

「韓国語能力試験 初級」は「韓国語能力試験 I」に変わり、評価領域が 4 領域（「語彙・文法」「書き取り」「聞き取り」「読解」）から 2 領域（「聞き取り」「読解」）に変更されます。

「韓国語能力試験 中級」と「韓国語能力試験 高級」は統合し「韓国語能力試験 II」に変わり、4 領域から 3 領域（「聞き取り」「書き取り」「読解」）に変更されます。

「韓国語能力試験 I」は、「語彙・文法」と「書き取り」をなくし、「韓国語能力試験 II」は「語彙・文法」をなくすことで、受験生の試験準備の負担を減らしました。



3 2014 年の試験実施時期はどう変わりますか？

2014 年は 5 回の試験が実施されます。（日本ではこれまでどおり年 2 回実施）
詳しい日程は、韓国語能力試験のホームページ（www.topik.go.kr）で確認できます。



4 試験科目、問題数、試験時間はどう変わりますか？

現行

●各級共通				
領域	問題数	試験時間(分)	校時	
語彙・文法	30	45	90	1 限
書き取り	14~16	45		
聞き取り	30	45	90	2 限
読解	30	45		

変更後

●韓国語能力試験Ⅰ					●韓国語能力試験Ⅱ				
領域	問題数	試験時間(分)		校時	領域	問題数	試験時間(分)		校時
聞き取り	30	40	100	1 限	聞き取り	50	60	110	1 限
読解	40	60			書き取り	4	50		
					読解	50	70		2 限

試験時間は、「韓国語能力試験Ⅰ」（初級）は現行の180分から100分に減らして受験生の負担を減らし、「韓国語能力試験Ⅱ」（中・高級）は180分で以前と同じです。

問題数は、「韓国語能力試験Ⅰ」は現行の104問から70問に減らし、受験生の負担を減らしました。



5 「韓国語能力試験Ⅰ」と「韓国語能力試験Ⅱ」に分けて実施する理由は？

第1に、近ごろ韓流の影響で韓国語に対する関心が高まるにつれて韓国語能力試験の受験者数が継続的に増えており、受験者の要求が多様化している点を反映させました。

学習経験が多くない韓国語学習者のためには、大きな負担なく実力を確認できるように比較的シンプルな「韓国語能力試験Ⅰ（TOPIKⅠ）」を実施することとし、韓国語を継続的に学習してきた学習者のためには、実力がどの程度なのか確認すると同時に、継続的に能力を発展させられるよう、中級と高級を統合した「韓国語能力試験Ⅱ（TOPIKⅡ）」を実施することにしました。

第2に、韓国語能力試験が実施されていた間、変更の必要性が提起されてきた問題点（試験科目、出題形式、落第点制度）などを合理的に変えました。

コミュニケーション能力の評価に重点を置きながら、間接的な方式（選択式問題）も行って「書き取り」領域は、記述能力が直接評価されるように（記述式問題のみに）しました。

変更後の韓国語能力試験は、近ごろの主な外国語の能力試験の改編傾向などを参考にしながら、受験者の韓国語能力を適切で妥当に評価する方向に変えるものです。



6 「語彙・文法」をなくした理由は？

韓国語能力試験は、韓国語でのコミュニケーション能力を評価するのが目的です。それには、会話、聞き取り、読解、書き取りを評価しなければなりませんが、会話能力を評価するにはさまざまな条件を満たす必要があるため、「聞き取り」「書き取り」「読解」を評価領域としました。



7 出題形式は大きく変わりますか？

「書き取り」領域を除き、出題形式は大きく変わりません。

変更後の試験の出題形式は、現在実施されている試験と大きく変わりません。

ただし、「読解」領域に「語彙・文法」を評価する問題が含まれ、「書き取り」が記述能力を直接評価する問題になる（選択式問題がなくなり、記述式問題のみになる）のが変更点といえます。



8 「韓国語能力試験Ⅱ」の「書き取り」の採点方法は？

「韓国語能力試験Ⅱ」の「書き取り」は全4問が出題されます。

1～2番の問題は、文の流れに合う文章を1～2文書くもので、3～4番は、日常生活に関連した作文と、論理的な作文問題です。

これらの問題を複数名の採点委員が採点しますが、採点時に重点的に見る内容は、使用している語彙と文法のレベル、出題に沿った記述ができているかです。



9 合格級はどう判定しますか？

（12番のQ&Aもご覧下さい）

試験問題作成後、専門家により各問題の難易度を最終決定して合格点を定めます。

毎回、試験実施後に級別の合格点を公開する方式で、受験生は成績表を通して自分の韓国語能力を正確に把握できます。



10 問題の難易度、問題数、配点はどう変わりますか？

変更後の「韓国語能力試験Ⅰ」の問題の難易度、問題数、配点は、以前と大きく変わりません。しかし、これまでの中級と高級を統合した「韓国語能力試験Ⅱ」は、問題の難易度、配点に変更があります。

詳しい内容は、下表をご参考下さい。

<現行の試験（初級）と「韓国語能力試験Ⅰ」の難易度、問題数、配点の比較>

○「聞き取り」「読解」

		現行		変更後	
		●初級		●韓国語能力試験Ⅰ	
難易度		問題数	配点	問題数	配点
2級	上	4	13	4	50
	中	7	24	8	
	下	4	13	8	
1級	上	4	13	8	50
	中	7	24	8	
	下	4	13	4	

※ 難易度 上：多少難しいレベル 中：ふつうのレベル 下：多少易しいレベル

<現行の試験（中・高級）と「韓国語能力試験Ⅱ」の難易度、問題数、配点の比較>

○「聞き取り」「読解」

現行				変更後		
難易度			問題数	配点	問題数	配点
6 級	上	●高級	4	13	4	8
	中		7	25	5	10
	下		4	12	4	8
5 級	上	●高級	4	13	4	8
	中		7	25	5	10
	下		4	12	3	6
4 級	上	●中級	4	13	4	8
	中		7	25	5	10
	下		4	12	4	8
3 級	上	●中級	4	13	4	8
	中		7	25	5	10
	下		4	12	3	6

※ 難易度 上：多少難しいレベル 中：ふつうのレベル 下：多少易しいレベル

○「書き取り」

現行				変更後			
●中級 ●高級（共通）				●韓国語能力試験Ⅱ			
出題形式	問題数	配点		難易度	出題形式	問題数	配点
選択式	10	40		4 級下～3 級下	記述式 単文	2	20
記述式	単文 3～4	30		4～3 級	作文	1	30
	作文 1	30		6～5 級	作文	1	50



11 落第点制度をなくした理由は？

落第点制度をなくしたのは受験者のため、総得点は高くても、ある領域で点数が低く合格できないという問題を改善したものです。

変更後の韓国語能力試験は総得点によって合格級を判定します。

これにより、ある領域の点数が低いという理由でより高い韓国語のコミュニケーション能力を持つ人が不合格となり、それより低い点数の人が合格するという不合理を解消できるでしょう。



12 不合格や合格級はどう判定しますか？

現行の試験とは違い級別の合格点を事前には公開せず、問題作成後に各問題の難易度の設定により合否判定のレベルを定め、これにより不合格と級別の合格点を定めることになります。

変更後の試験の予想される不合格の点数は、「韓国語能力試験Ⅰ」（初級）は総得点 100 点（200 点満点）未満、「韓国語能力試験Ⅱ」（中・高級）は総得点 120 点（300 点満点）未満になりそうですが、正確な不合格の点数は級別の合格点の設定により多少変動することがあります。



13

会話能力は評価していませんが、会話の試験を実施する計画はありますか？

会話の試験は別途に開発し、将来実施する計画です。



14

試験の時間（時間割）は？

区分	校時	領域	中国など			韓国・日本			その他の国			試験時間 (分)
			入室	開始	終了	入室	開始	終了	入室	開始	終了	
TOPIK II	1 限	聞取, 書取	08:10	08:30	10:20	09:10	09:30	11:20	08:40	09:00	10:50	110
	2 限	読解	10:30	10:50	12:00	11:30	11:50	13:00	11:00	11:20	12:30	70
TOPIK I	1 限	聞取, 読解	13:10	13:30	15:10	14:10	14:30	16:10	13:40	14:00	15:40	100

※ 中国など：中国（香港含む）、モンゴル、台湾、フィリピン、シンガポール、ブルネイ

※ 試験時間は現地時間基準。TOPIK I と TOPIK II の併願可能。



15

試験結果の有効期間は？

有効期間は以前と同じく、結果発表日から 2 年です。



16

試験に関する問い合わせ先は？

韓国語能力試験（TOPIK）については、（大韓民国）国立国際教育院 TOPIK チーム（電話：+82-2-3668-1331，または e-mail：topik@moe.go.kr）へお問い合わせください。